

1-23 各部の基本納まり図

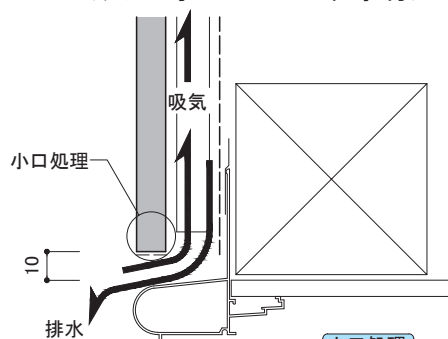
11) オーバーハング部

基本納まり

オーバーハング部は外壁通気構法の「吸気」機能、浸入水や結露水などの「排水」機能を発揮するよう施工します。

- オーバーハング部材はモエン用釘で、躯体に500mm以下の間隔で水平に留め付けます。
- オーバーハング部材の取り付け後(同質オーバーハング用部材は防水紙を張る前)、両面防水テープを貼り付けて、防水紙を密着させます。
- モエン下端とオーバーハング部材の隙間は必ず10mm確保し、シーリングなどでふさがらないでください。
- モエン下端が小口面切断面となる場合は、吸水による不具合を防ぐため、必ず補修塗装(小口処理)を行います。
- 釘打ちする場合の端あき距離、先孔については、P39をご参照ください。

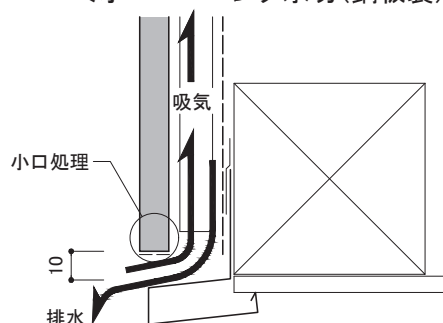
<アルミオーバーハング水切>



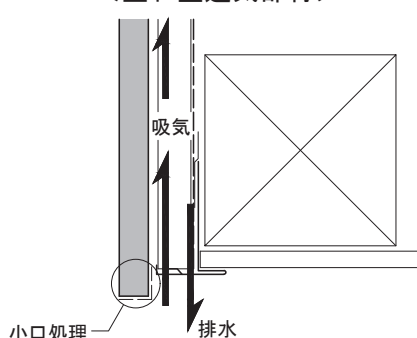
小口処理

オーバーハング水切の場合は、モエン小口面・切断面にモエンシーラーを十分に塗布し、乾燥後、再度、モエンシーラーを塗布してください。(2回の塗布となります)

<オーバーハング水切(鋼板製)>



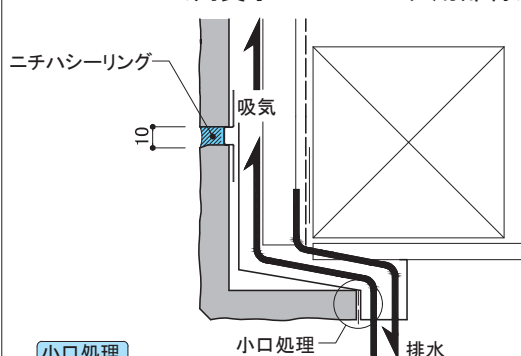
<垂れ壁通気部材>



小口処理

垂れ壁通気部材の場合は、モエンの小口面・切断面があらわしになるため、小口面・切断面にモエンシーラーを塗布し、乾燥後、補修塗装を行ってください。

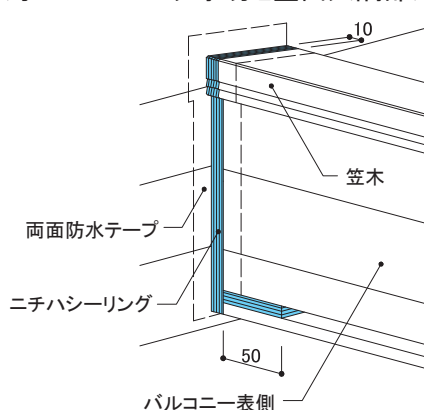
<同質オーバーハング用部材>



小口処理

※同質オーバーハング用部材は胴縁下地に留め付けます。
※水平方向の内寸を70mmに切断します。切断小口面にモエンシーラーを塗布し、乾燥後、補修塗装を行ってください。

<オーバーハング水切と壁面入隅部>



不具合のおそれがある納まり

下図のような納まりは……

- ①裏面に浸入した雨水や結露水を排出できず軒天材にシミを作るなどの不具合の原因となります。
- ②外壁通気の吸気排水経路が確保できません。

